

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

# 考えてください

## 生物多様性

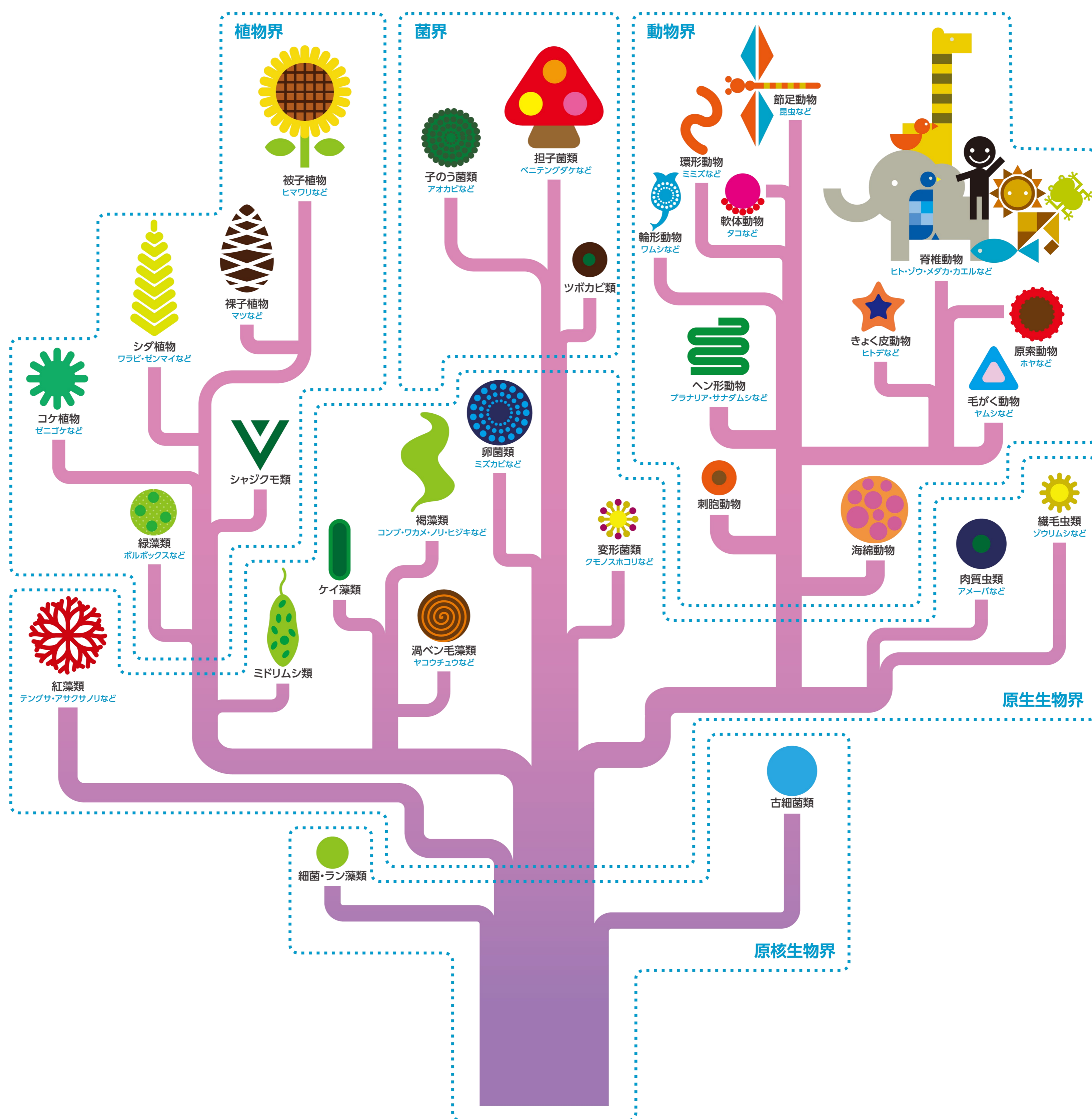
私たち人類の活動の影響によって生きものたちの絶滅のスピードは自然の速度の約1,000倍になっていると言われています。

私たち人類も生きものであり、他のたくさんの生きものとともに、支えられて生きています。生物多様性のめぐみを受けて、はじめて私たちは暮らしていくことができるのです。

# 生きものの進化と生物多様性

## 種の多様性・遺伝子の多様性

地球上の生きものは、生命が誕生して以来、様々な環境に適応して進化してきました。現在、地球には3,000万種ともいわれる多様な生きものがあります。ゾウのように大きなものから細菌のように小さなものまで、いろいろな生きものがいて、同じ種の生きものでも個性にちがいがあります。これらの生きものは長い年月をかけてお互いにつながりあい、支えあって生きているのです。



### 種の多様性

鳥、魚、植物などいろいろな種類の生きものがあること。



### 遺伝子の多様性

同じ種でも形や模様、生態などに多様な個性があること。例えば、テントウムシやアサリの模様はさまざま、これらはすべて遺伝子の違いによるものです。



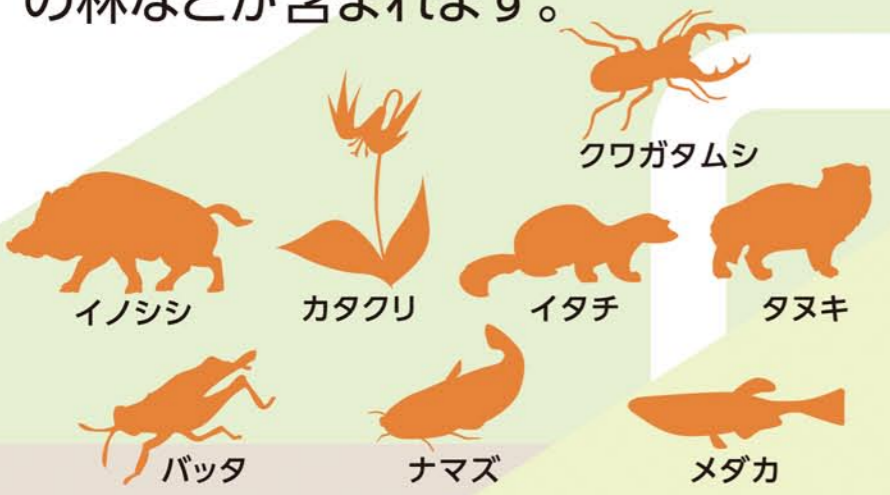
# 日本の自然環境と生きもののつながり

## 生態系の多様性

日本には9万種以上の生きものがあります。数千の島々からなる国土は南北約3,000kmにわたり、海岸から山岳までの高低差があり、はっきりした四季の変化、火山の噴火や台風などの自然現象、そして人間活動の影響も受けて、多様な生態系が形成され、さまざまな生きものの生活の場となっています。

### 里地里山

長い歴史の中で人間の働きかけを通じて特有の自然環境が形成された地域で、農地、ため池、草原やその周辺の林などが含まれます。



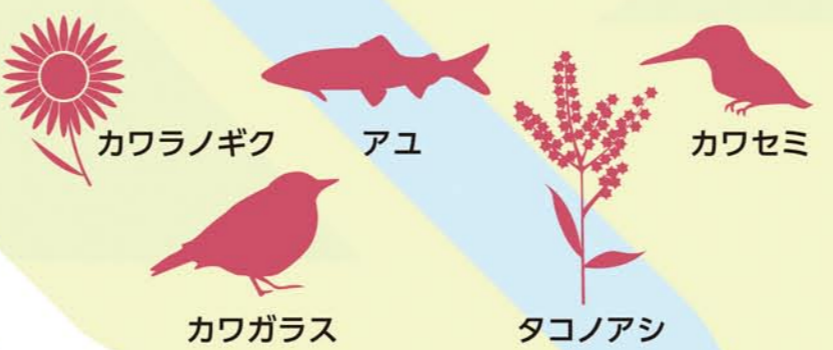
### 奥山

自然に対する人間の働きかけが小さい地域で、大型のほ乳類や猛禽類の生息地が含まれます。



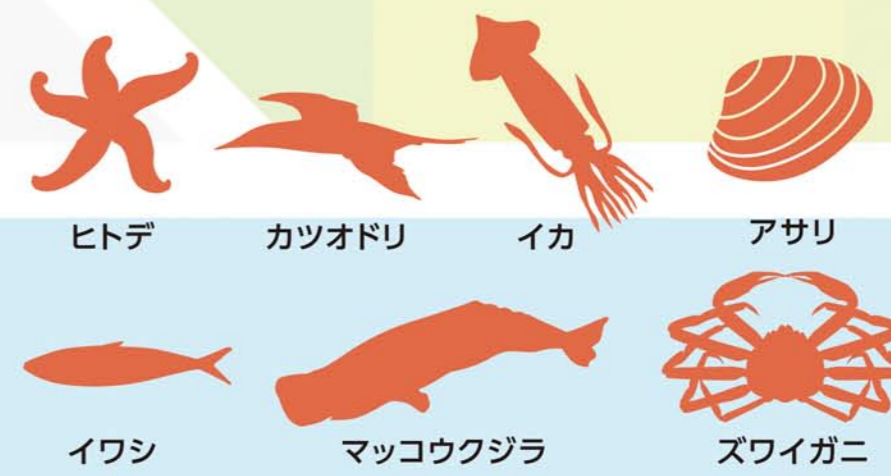
### 河川・湿原

魚類や水鳥をはじめ、多様な生きものすみかとして重要です。また河川は上流・下流、森と海をつなぐ自然の回廊です。



### 沿岸・海洋

干潟、サンゴ礁、深海などさまざまな生態系があり、陸上の気候や生態系にも影響を与えています。



### 生態系の多様性

各地に森林、草地、河川、湿原、干潟、サンゴ礁などいろいろなタイプの自然があること。



### 生態系のつながり

それぞれの生態系もつながっています。例えば、山に降った雨は、森林に栄養分とともに蓄えられた後、地下水や川となって海へと流れ込みます。一方で陸上や海洋から発生した水蒸気が雲となって、また雨となって、循環します



# 自然のめぐみ

私たちは、暮らしに欠かせない水や食料、木材、繊維、医薬品をはじめ、様々な生物多様性のめぐみを受け取っています。

生物多様性が豊かな自然は、私たちのいのちと暮らしを支えているのです。



## バイオミミクリー

自然界の形態や機能を模倣したり、そこからヒントを得ることで、様々な問題の解決や、画期的な技術革新につながることがあります。これを生きものの真似という意味から、「バイオミミクリー」と言います。



# 人間の活動による生物多様性の危機

私たち人間の活動により、世界の森林が2000年から2010年の間に、平均で毎年520万ヘクタール(九州と四国を足した面積程度)消失しています。またサンゴ礁は19%が既に失われ、さらに今後10年から20年の間に15%が失われる可能性があります。この結果、私たちは、生きものたちの絶滅スピードを1,000倍に加速させています。



写真提供：山下正木、関東地方環境事務所、鍵井靖章

## 人間活動の縮小による危機

長年の農林業などの人間活動を通じて形成された里地里山は、希少な種を含め、さまざまな生きものすみかとなっています。ところが人口減少や高齢化、農業や生活のスタイルの変化により、人間活動が縮小し、里地里山の生態系が変化して、生きものが絶滅の危機に瀕しています。



# 自然と共生する世界の実現に向けて

地球規模で生物多様性の損失と劣化が進み、取り返しのつかない事態を招くおそれがあるとの危機感の中、2010年に愛知県名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開かれ、2011年以降の世界目標である愛知目標が採択されました。私たちの将来の世代のためにも、生物多様性を守り、持続的に利用していく責任があります。



## 国連生物多様性の10年

2011年から2020年までの10年間は日本が提案し、国連が定めた「国連生物多様性の10年」です。世界的に生物多様性の損失に歯止めがかからない状況を踏まえ、愛知目標の達成に向けて、国際社会のあらゆるセクターが連携して生物多様性の問題に重点的に取り組む期間です。



## 国連生物多様性の10年日本委員会

国連生物多様性の10年を受け、2011年9月に、経済界、市民団体、自治体、専門家などの多様なセクターが参画して、「国連生物多様性の10年日本委員会」が設立されました。生物多様性の主流化を目指し、様々な取組を進めていきます。





